

## 可燃性毒物

### 可燃性毒物 かねんせいどくぶつ

burnable poison。炉心内の核燃料に固定または混入して用いられる。核燃料の燃焼に伴って、燃料の燃焼や核分裂生成物の蓄積による反応度が低下するので、この反応度低下分を補償するのが中性子吸収性毒物である。このような物質を可燃性毒物またはバーナブルポイズンという。新炉心の始動前や運転初期段階では、寿命終期にくらべてかなり大きな反応度を必要とする。この反応度を炉心終期まで制御するため可燃性毒物を使用する。これには中性子吸収断面積の大きな物質を使用する。種々の物質が可燃性毒物として使用されているが、ホウ素が代表的なもので、このほかサマリウム、ハフニウム、ガドリニウムなどがある。

---

<登録年月>

1998年02月

---

---